

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

April 30, 2021

## ドル円、米雇用統計期待で堅調推移か

- ◆ドル円は、米4月雇用統計への期待感から堅調推移か
- ◆米4月ISM製造業・非製造業景気指数や3月貿易収支にも要注目
- ◆ユーロドルは、ユーロ圏3月小売売上高や独3月鉱工業生産に要注目

### 予想レンジ

ドル円 105.00-110.00 円

ユーロドル 1.1800-1.2300 ドル

### 5月3日週の展望

ドル円は堅調推移か。ドル円は、3-5日は東京市場がゴールデンウィークで休場のため閑散取引が予想される中、7日に発表される米4月雇用統計の改善が予想されていることから底堅い展開が予想される。しかしながら、ドル円の上値は、日米首脳会談での対中強硬路線を受けた極東の地政学リスク回避の円買いや日本の緊急事態宣言を受けた景気悪化懸念によるリスク回避の円買いで限定的だと予想される。

3日に発表される米4月ISM製造業景気指数は64.9と予想されており、3月の64.7からの改善が見込まれている。5日に発表される米4月ISM非製造業景気指数は64.0と予想されており、3月の63.7からの改善が見込まれている。予想通りならば、米国の景気回復基調が確認されることから、ドル買い要因となる。

4日に発表される米3月貿易赤字は、過去最大の貿易赤字を更新している流れを受けて赤字拡大が予想されている。米国の「双子の赤字(財政赤字・経常赤字)」が過去最大規模まで拡大傾向にあることから、貿易赤字も拡大基調にあり、ドルの上値を抑える要因となりつつある。

5日に発表される米4月ADP全国雇用者数は、前月比+75.0万人と予想されており、3月の前月比+51.7万人からの増加幅の拡大が見込まれている。予想通りなら米4月雇用統計への期待感が高まるか。

7日に発表される米4月雇用統計の予想は、非農業部門雇用者数が前月比+92.5万人と3月の前月比+91.6万人から増加幅が拡大、失業率は5.8%と3月の6.0%からの低下が見込まれている。米4月消費者信頼感指数は121.7へ上昇し、2020年2月以来の高水準を記録したが、雇用状況に関しては、現在仕事が豊富にあるとの回答比率は38%近くとなり、パンデミック入り後の最高を記録した。4月雇用統計への期待感が高まっている。

ユーロドルは伸び悩む展開か。3月の欧州中央銀行(ECB)理事会では債券利回り上昇を抑制するため、パンデミック緊急購入プログラムの下での債券購入を加速させる方針が示し、4月理事会でも段階的終了が議論されなかったことから、ユーロの上値は限定的か。ドイツやフランスのロックダウンや、財政再建を巡るドラギ政権内の対立によるイタリアの解散総選挙リスクにも要警戒。ユーロ圏3月小売売上高や独3月鉱工業生産のネガティブサプライズにも警戒が必要。

### 4月26日週の回顧

ドル円は、107.64円から109.22円まで上昇した。バイデン大統領の施政方針演説での「米国家族計画」(約1.8兆ドル)や米第1・四半期国内総生産(GDP)速報値が年率換算で前期比6.4%増加したことで、米10年債利回りが1.69%台まで上昇したことが支えとなった。ユーロドルは、パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長がテーパリング議論は時期尚早と述べたことから、1.2056ドルから1.2150ドルまで上昇した。ユーロ円は、130.21円から132.37円まで上昇した。(了)